

健康

読んで長生き お役立ち

前立腺がんの

ロボット手術

5年後には男性1位の予測

—前立腺がんは増えている
大堀 現在はタチの悪い前立腺がんを持っている潜在的な患者さんは100万人いるといわれ、

その中で、およそ10万人が検査によって見つかっています。2020〜24年には年平均10万5800人と、男性がかかるがんとしては胃がんを抜いて第1位になると予測されています。

—目覚症状はあまりない
大堀 初期はそうでもない。でも、進行すると尿が出にくい、あるいは頻尿、残尿感がある、下腹

部に不快感がある、などの症状が出ます。思い当たる方はぜひ検査することをオススメします。
—進行が遅いので、「放置していてもあまり問題ない」と考えている方も多い
大堀 確かに前立腺がんは他のがんと比べて進行が遅いのですが、放置しておいても問題ないというわけではありませ

尿道を広げる効果的な薬も

—前立腺手術という能を温存できるようになりました。
大堀 ステージにより、ホルモン治療、放射線治療、手術となります。特に近年はロボット手術が目覚ましい進化を遂げているんです。

—前立腺肥大症で悩む人も多い
大堀 25年前はなかったのですが、近年になって尿道を広げる効果的な薬も出てきています。しかし、重度の場合は手術が必要で、実は手術数

ヘルス 新潮流

40〜50代になると気になるのが前立腺の病気だ。頻尿や尿が出にくくなったことに悩む人も多いだろうし、前立腺がんも増加中。手術となると男性機能の喪失も気になるどころだが、ロボット手術の進化により、状況は大きく変わつつある。「ロボット手術と前立腺がん」(祥伝社)の著者で東京国際大堀病院院長の大堀理氏に最新事情を聞いた。

大堀理
ロボット手術と前立腺がん



おほり・まこと 1956年生まれ。岩手医科大学卒業。京医科大学泌尿器科教授。現在、東京国際大堀病院院長。

繊細な作業可能な機械の腕 男性機能を温存

半数以上が



ロボット手術の目覚ましい進化によって、前立腺がんの手術でも性機能の温存が可能になった

—前立腺手術という能を温存できるようになりました。
大堀 25年前はなかったのですが、近年になって尿道を広げる効果的な薬も出てきています。しかし、重度の場合は手術が必要で、実は手術数が多いんです。前立腺肥大症は前立腺が大きくなって、尿道を圧迫して尿が出にくくなったり、頻尿になると尿道が閉じて、尿が漏れる状態になります。

—それは困りますね
大堀 現在はレーザーを使って肥大した前立腺を削る手術が一般的になっています。手術をして、勢いよくおしっこが出る

—男性機能も残せるんですか
大堀 はい。ロボット手術の進化で、現在は性機能の神経の温存も可能になっています。非常に繊細な作業なので、人間の手では難しかったのですが、ロボット手術のおかげで半数以上が男性機能